

電気のふるさと



特集

「協働」と「連携」によるまちづくり① ～鹿児島県薩摩川内市の地域活性化事業～
「よそ者・若者」を活用して「定住」を見据えた
薩摩川内市の『ぽっちゃん計画』

■わがまち自慢 ～町長室から～
福井県美浜町

■電源地域振興トピックス
町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

わがまち自慢 ～町長室から～

みはまちょう
福井県美浜町
やまくちじたるう
山口 治太郎 町長



おいしい自然、 ハートフル美浜

古来、山が紫に霞み、川は澄みきって美しいという『山紫水明』という表現がありますが、まさに、私たちのまち美浜町を表す言葉だと思っています。四季折々に様々な顔を見せてくれる三方五湖、澄んだ海の敦賀半島西海岸、緑深い森林を流れる耳川など、豊かな自然が凝縮した町であります。こうした海・山・川・湖の風土は、同時に豊かな恵みを私たちに与え、人情味あふれる気風を育んできました。その意味で、私たちの目指す町の将来像の表現を「美(うま)し美浜の創造」と名づけました。

こうした「美(うま)し美浜」を体感していただくため、平成16年から『若狭美浜はあとふる体験』事業を行っております。美浜町の自然や産業、文化、食を体験できる約70種類のプログラムを用意しており、「体験教育旅行」として、全国から高い評価をいただいております。

美浜町といえば、鯖の糠漬「鯖のへしこ」ですが、平成17年に『へしこの町』を宣言して商標登録をしました。来年夏頃、ご当地居酒屋を展開されている事業者が、美浜町の農林水産物を提供する新店舗「福井県美浜町」を東京に開く予定となっております。東日本の方々には、あまり馴染みがないかもしれませんが、この機会に



「へしこ」は魚の糠漬で若狭地方の伝統的な冬の保存食。へしこの代表格が「鯖のへしこ」

「ボートの町・美浜」の恒例行事となっている『美浜町民レガッタ』



美浜町の伝統食「へしこ」を味わっていただきたいと思います。

「心」を美しく 豊かに育んでいただくために

昭和43年に、福井国体が開かれ、久々子湖がボート会場に選ばれました。これを契機に、美浜町にボート競技が根つき、今では「ボートの聖地」と呼ばれています。私も県ボート協会の会長をさせていただいておりますが、全国でも珍しい「ボートのまち」としての取組みを積極的に行っており、日本代表選手も数多く輩出しています。毎年10月に、『美浜町民レガッタ』が開かれますが、平成26年には過去最多の263クルーが出場し、全国の市民・町民レガッタとしては、最大規模の大会となりました。また、毎年開催する『美浜・五木ひろしまラソン』も町を代表するスポーツイベントですが、名誉町民である五木ひろしさんのご協力をいただき、4,400名を超えるたくさんの市民ランナーが集まり、県外参加者が7割以上という大会となっております。

こうした生涯スポーツとともに、町制施行50周年記念となった平成16年には、『生涯学習のまち』を宣言して生涯学習の取組みも行っております。

小中学校におけるエネルギー環境教育は、町独自の副読本を作るなど、先進的な取組みとしての評価をいただいております。

修学旅行などの教育旅行で人気になっている『若狭美浜はあとふる体験』事業。子どもたちのみならず、保護者からの評価も高い。写真は『大敷網体験』



来年度から新たにエネルギー環境教育体験施設を整備する予定です。

平成24年に、図書館や公民館、多目的ホールの機能を持つ複合施設『生涯学習センターなびあす』を開館しました。ここのホールには魂のピアノといわれるイタリアの『ファツィオリ社製 F 308』を国内ホールで初めて導入しました。その反響は大きく、国外や県内外の音楽家から注目していただいております。

最後に本町の「定住化対策」についてお伝えします。

これまで、通勤時間帯の渋滞を解消するために美浜～敦賀間の道路を整備した他、保育時間の延長、土曜保育、「子育て支援センター」の開設なども行ってきており、現在は産業団地や住宅団地の整備などを進めています。平成の大合併のときに、本町は、平成22年度には人口1万人を切るといわれていました。しかし、おかげさまで現在まで、その1万人を保っております。

今後とも「自然かがやきいきいき町がにぎわう 美(うま)し美浜」を将来像とし、町民の皆様とともに「協働」による積極的なまちづくりを進めてまいります。(談)

三方五湖は若狭国定公園を代表する景勝地で、平成17年にはラムサール条約登録湿地に認定されている



「協働」と「連携」によるまなづくり⑩ 鹿兒島県薩摩川内市の地域活性化事業

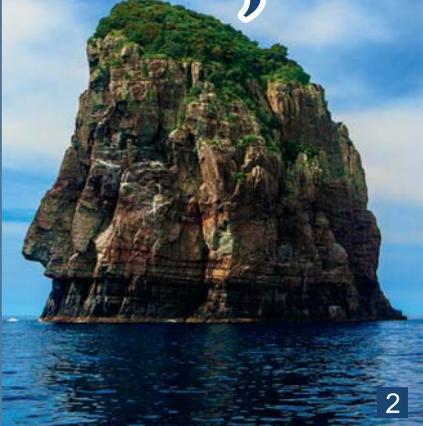
「よそ者・若者」を活用して 「定住」を見据えた薩摩川内市の 『ぽっちゃん計画』



【写真】 1 上甌島の「甌大明神」。甌に似た岩の形から甌島という名の発祥地と伝えられている
 2 下甌島の瀬々野浦に突き出た高さ127mの奇岩「ナポレオン岩」
 3 下甌島の地域住民の「特産品」づくりをサポートする『ぽっちゃん計画・地域おこし協力隊』隊員
 4 下甌島は「タカエビ（薩摩甘エビ）」の漁場
 5 上甌島のエメラルドグリーンに輝く海
 6 上甌島の里地区は「トンボロ（陸繋砂州）」の上にてきた町



鹿児島県・薩摩川内市では平成21年から、「地域のモノ・コト・ヒトを総動員して、さらに磨きをかけながら、まるごと市内外へ総合的なセールスを行う」、いわゆる「シティセールス」事業を展開している。今回は、その一翼を担う『ぽっちゃん計画・地域おこし協力隊』事業の事例をお伝える。



2

「シティセールス」事業の 一翼を担う『ぽっちゃん計画』

薩摩川内市の「シティセールス」事業は、一昨年の小誌V01.28の特集で述べたが、『市民ぐるみ』と『雇用創出』のキーワードのもと、「旅」「食」「品」の開発を展開しようとするもの。

その仕掛けは多岐にわたり、「旅」は『きゃんぱく』という市民を巻き込んだ観光プログラムの造成、「食」は2店舗以上の共同メニューの開発、そして「品」では『ぽっちゃん計画』

というプロジェクトによる商品開発などだ。

その中の、ユニークな「ぽっちゃん」という呼称だが、石を水面に「ぽっちゃん」と投げ入れると、波紋が広がっていく様子から名づけられた。その『石』になつてもらうのが大都市の若者たち。



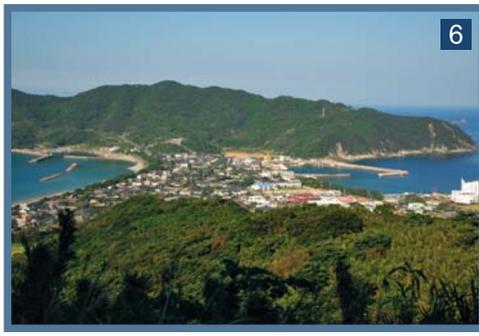
3



4



5



6

■薩摩川内市情報■
 【人口】98,342人(平成26年11月1日現在)
 【面積】683.5km²
 (本土564.75km² / 甌島118.75km²)
 【発電所データ】
 九州電力(株)川内原子力発電所
 九州電力(株)川内発電所
 【本特集問合せ先】
 薩摩川内市 商工観光部
 観光・シティセールス課
 ☎0996-23-5111



今までに開発した商品(一部)



第1期「ぽっちゃん計画」で作られた『ドレスソース』は3年目で年間売上本数1万本を超える大ヒット商品になった

住民票を薩摩川内市に移して、「条件不利地域」に入って住民とともに地域おこしを行う。彼らの「よそ者だからこそ生み出せる発想やデザイン力」に期待する。この事業は、平成21年の「シティセールス」事業の立ち上げとともにプロジェクト化した。第1期9名は、平成23年に厚生労働省の「地域雇用創造推進事業」を活用してスタート。現在は、平成25年から27年までの第2期で、総務省の「地域おこし協力隊事業」に基づいている。

第2期は10名。入来・樋脇・上甕島・下甕島・向田地区の市内5地域で、各地域の実情に合わせて設定された取り組みテーマに沿って活動する。受け入れ組織は、地区の活性化協議会や商工会、観光物産協会、地域青年部などだ。

一般的に、地域おこしは「よそ者・若者・バカ者」が必須とよくいわれる。そのうちの「よそ者」と「若者」を募り、地域で大いに活動してもらい、将来は地域の「人材」として定住してもらおう、というのが、この『ぽっちゃん計画』のコンセプト。シ

ティセールス」事業など、薩摩川内市の描く将来都市像に向けた、事業の一翼を担っている。

彼らの業務は、地域イベントの支援や観光マップ作成、観光案内などだが、共通している具体的なミッションは、地域住民や地域の事業者らとともに「商品開発」。市から委嘱された3年間の任期中に、年間5つの商品開発が義務付けられている。自ら地域資源を探し出し、住民や地域の事業者へ商品開発を提案して、実際に彼らとともに、商品を創り出している。

自らの能力を磨き、将来の夢を醸成

東シナ海に浮かぶ甕島列島はかつて「五色島」とも呼ばれ、断崖や巨岩に囲まれて手つかずの自然に恵まれた島々だ。上甕島・中甕島・下甕島が縦に連ね、地形の違いから、それぞれの表情を楽しむことができ、人情味豊かな島民は、とても人なつこい。

本年4月に、市内の川内港ターミナルから高速船甕島が就航。新幹線の停車駅であるJR川内駅から、大型電気路線バスで川内港ターミナルへ約25分、そこから40分の船旅で上甕島里港に着き、アクセスが格段に良くなった。

月1回の『ぽっちゃん会議』で、その進捗状況を報告し合い、市の観光・シティセールス課の担当者や意見交換をしながら商品化。スキルアップのために、都市部で開かれる販売会で、創り出した産品を販売して、消費者の反応を見る、いわゆる「マーケット・イン」の研修も行う。先進地を実際に訪れる研修も行い、自らの能力に磨きをかける。

第2期『ぽっちゃん計画』では、平成25年度3月末までに開発した商品は74に上る。主なものとして、「しそサイダー」「タカエビ味噌」「甕

島の観光客入込み数も、平成23年度から倍増して、25年度には5万7,000人を超え、昨今の「離島ブーム」の中でも注目される観光地となっている。その甕島列島の、上甕島に2名、下甕島に2名の計4名の『ぽっちゃん』が入っている。

上甕島に入っているのが、船井亜耶子さん(33歳)と、江藤弘明さん(28歳)。

船井さんは大阪市出身で、東京のIT企業に勤めていたが、病気を機に退職。島旅が好きだったこともあり、

またぬぐい「古民家カフェ」などだ。ちなみに、第1期では、特産品ではタマネギをベースとした『ドレスソース』などの大ヒット商品を生み、下甕島で「アクアスロン(スイムとラン)の2種目で行うスポーツ競技」大会を企画・開催した。

彼らの採用要件は「田舎が好き・焼酎が好き・ドラッカー(経営学者)が好き」というもの。第2期の『ぽっちゃん計画』には全国から50名が応募してきた。採用された10名は男女5名ずつで、それぞれの地域に男女ペアになって入っている。

島で「食」にかかわる仕事を探していた。そのような時に、『ぽっちゃん計画・地域おこし協力隊』事業が目にとまり応募した。今まで開発した代表的な商品は、『大豆バター』や、島に自生するアロエと清見オレンジを



(上) JR川内駅と川内港ターミナルを結ぶ大型電気路線バス「こしきバス」
(中)九州新幹線『つばめ』のデザイナー・水戸岡鋭治氏のデザインによる高速船甕島
(下) 船内は木目調のインテリアでシックな雰囲気

～鹿児島県薩摩川内市の地域活性化事業～



上甌島に赴任している
船井 亜耶子さん



上甌島に赴任している
江藤 弘明さん



下甌島に赴任している
小泉 拓郎さん



下甌島に赴任している
関美穂子さん

リアなど海外を周る。オーストラリアではワーキングホリデーでチェリ―摘みを行っていた。帰国後、新聞の募集広告を見て応募した。今、開発しているのは「和のハーブ」。休耕地を活用して栽培したレモングラスと炒った大豆をブレンドするお茶や、女性やお年寄りでも栽培できるハーブに注目している。

下甌島に入っているのが、小泉拓郎さん(30歳)と関美穂子さん(24歳)。

小泉さんは東京出身で、前職は浜松の自動車メーカーで、カーデザイナーだった。東日本大震災で気仙沼の離島でボランティア活動を行ったときに「島おこし」を思い立って応募した。着任してからは、主に「タカエビ味噌」などの商品開発の支援を行ってきた。この「タカエビ味噌」は半年で4,000個売れるヒット商品になった。

使った『島アロエジャム』、『アロエと天然塩のハーブソルト』など。

江藤さんは北九州市出身で、20代前半からアラスカやオーストラ

このように、彼らの動機は様々だが、共通するのは、自らの「自己実現」だ。地域に飛び込み、地域の課題を地域住民と共有化しながら、支援する…。とても眩しく見えるのだが、現実はそのほど甘くないはずだ。

関さんは鹿児島県出身で、以前は福岡の旅行会社で旅行商品を企画していた。観光人類学を専攻していたこともあり、地域の人たちと「着地型観光ツアー」を行いたいと思っていたところに、持続可能な観光モデルを目指す薩摩川内市に魅かれた。現在は主に、50年前に生活道として使われていた古い道を、地域住民とともに再生して、トレッキングツアーの可能性を探っている。

第一期生は、ほとんどが市内に定住

彼ら「ぼっちゃん」たちも、着任当初は様々な苦労をした。人情味あふれる土地柄とはいえ、甌島は『離島』である。都会からやってきた若者たちにとって、その孤独感、寂寥感は初めての経験だった。それに加えて、島民の『目』には、いつも息苦しさを感じていたという。

そうした彼らを支えたのは、市の

観光・シテイセールス課の担当者たち。明確な目標を提示し、公私にわたる支援を行う。

「とても安心できる強力なサポートで、親のように思えることも…」と、彼らは口を揃える。そうした市のサポートのもと、自らの能力を磨き、それぞれの将来の夢を醸成しているのだ。

4人のうち、船井さん、江藤さん、小泉さんは任期が終了しても島に定住して、地域おこしに関わりたいたいと思っている。関さんは任期終了まで、ゆっくり考えていきたいという。

そのうちのひとりが、唐沢智子さん。現在は、薩摩川内市が「地域商社」として設立した、株式会社薩摩川内市観光物産協会で観光事業部長を務めている。前職は大手旅行会社

その「お手本」になっているのが第一期の「ぼっちゃん」たちや若手の移住者だ。『ぼっちゃん計画』第一期生9名のうち、任期終了後に市内に定住したのは8名。

下甌島の「瀬尾観音三滝」。55mの高所から一の滝、二の滝、三の滝と3段で落ちてくる



上甌島の「長目の浜」。なまこ池・貝池・釜崎池の大小3つの池が4kmにわたる砂州で海と隔てられている



（株）薩摩川内市観光物産協会
観光事業部部長の唐沢 智子さん



山下商店に勤める
新地 健郎さん



「こしきツアーズ」の
齊藤 智頭さん



「ギャラリー・ヒラミネ」の
横田 真希さん



「タカエビ味噌」を開発した
鷹丸工房の下野 睦子さん

の社員だった。平成22年から25年度まで、下甕島で任務に就き、そこでアクアスロン（スイムとラン）大会を企画・開催した。この大会は今年で3回目を迎えて、甕島列島の大きなイベントに育っている。

任期終了後に就職し、結婚して市内に住む。現在は全員が女性という観光事業部を率いている。多種多様な「着地型ツーリズム」で知られるスペインの「バルセロナ観光局」のような業態を作るのが目標という。

また、その開発能力を買われて市内の企業に就職した第1期生もいる。上甕島にも第1期生が定住している。島の様々な特産品開発を手掛ける『山下商店』を営む山下賢太さんの奥さんの山下麻由さんや、そこでデザイナーとして勤める新地健郎さんなどだ。



上甕島の『山下商店』は夏の間はカフェとなり、土曜日はバーとなる。島の若者が集う場になっている

もう一人、「こしきツアーズ」を経営する齊藤智頭さんは、シーカヤックのガイドツアーやナイトツアーを催行している。ナイトツアーでは、ビーチコーミング（浜に落ちていた流木や貝殻などの漂流物を拾い集め、その由来を調査したり加工したりする）の楽しさを伝える。今後は島の若手ガイドを養成したいという。齊藤さんも結婚して島に定住している。

島には、こうした「ぼっちゃん」たちの他に、平成16年から10年間、取り組まれた「KOSHIKI ART PROJECT」を機に、上甕島に定住した「ギャラ



齊藤さんの主催する「ナイトツアー」では「ビーチコーミング」の楽しさを伝えている

リー・ヒラミネ」のマネージャー・横田真希さんもいる。

「ぼっちゃん」第2期生にとつて、『ミッション』の取組みや将来を考えるうえでも、移住した先輩である彼らは「心強い存在」なのだ。下甕島の特産品である「タカエビ（薩摩甘エビ）」を使った『タカエビ

任期後の移住を見据えて

このように、新しい「発想力」や「デザイン力」は、受入れ組織の地域住民に刺激を与え、一定の成果をあげつつある。しかし、薩摩川内市は彼らを単なる「お手伝い」とは見していない。

市の、観光・シティセールス課の古川英利課長は次のように語る。
「今後のシティセールス事業は『民間主導』を目指しています。その『キ



「ギャラリー・ヒラミネ」は平成16年から始まった「KOSHIKI ART PROJECT」に触発された島の長老、平嶺時彦さんの作品を常設展示している

味噌」という商品開発を行った『鷹丸工房』の下野睦子さんは語る。
「商品は、この子たちがいないとできませんでした。様々なヒントをもらい、とても助かりました。島も、彼らが来てからだいぶ変わりました」
「ぼっちゃん」が、地域に残した「波紋」は大きく広がりがつつある。

「マン」としての活躍を、彼らに期待しています」
『「民間主導」へ向けた方向性のひとつに、観光

物産協会の株式会社化がある。市内の各事業者との密接な連携を保ちつつ、この



薩摩川内市 観光・シティセールス課
課長の古川 英利さん



〔上〕「タカエビ」の選別作業を行う下甌島の事業者
 〔左〕甌島を代表する味覚「キビナゴ」の刺身
 〔左下〕「キビナゴ」はそのまま塩焼きで食べるのも美味しい
 〔下〕下甌島の「タカエビ」は刺身のほか、様々な料理で味わえる。下甌島のイタリアンレストラン『OTTO 8』の「タカエビ・スパゲッティ」

協会に『地域商社』の役割を持たせ、さらなる販路拡大を目指す。それとともに、任期終了後に定住した「ぼっちゃん」たちが、地域住民とともに、民間で「シティセールス」事業を担うことを期待している。戦略的に『ぼっちゃん計画』を位置づけているのだ。

総務省によると、任期を終えた「地域おこし協力隊」の隊員がいる地域のうち、7割以上の自治体が、「今後も協力隊を受け入れたい」という。しかし、全国に散らばる隊員の半数近くが、任期後「定住したいのだから仕事がない」というのが現状だ。任期終了後の隊員の活動地および近隣地域への定住率は、平成25年度末で56%ほど。

任期終了後に活躍する『場』を、どのように彼らが獲得していくかが課題といえる。

前述したように「ぼっちゃん」た

ちは『自己実現』を目指して『覚悟』を持って地域にやってくる。最終的に地域の主体的な『担い手』として、持続的な定住を果たすには、自らのスキルを上げる努力をして、地元での就職あるいは起業を可能にしなければならぬ。

その「道筋」をつけてあげるのも観光・シティセールス課の大きな役割である。

「ぼっちゃん」へのミッションとして「1年間に5つの商品開発」という明確な目標を課していることはP.4で述べた。この課題はプロの商品プランナーでも難しい。しかし、市はあえて、この課題に挑戦させている。そのため、古川課長をはじめとし

た観光・シティセールス課の担当者は、スキルアップに向けた「ぼっちゃん」たちへの公私にわたる、励ましやサポートに奔走する。

「地域おこし協力隊」事業は、隊員・地域の受入れ団体・自治体の『連携・結束』が重要なポイントだといわれている。

「ぼっちゃん」たちは、古川課長を『親のような存在』と口を揃える。そうした、彼らとの信頼関係が、この『ぼっちゃん計画』の土台になっている。



甌島を舞台にしたエコツーリズムを含めた実証事業が行われており、レンタル用に20台の電動1人乗り超小型モビリティ『COMS』(左)と、3台の電気自動車(右)が導入されている



薩摩川内市観光・シティセールス課のみなさん

地域おこし協力隊

「地域おこし協力隊」制度は、総務省によると「都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の充実・強化を図る取組み」というもの。具体的には、地方自治体が都市住民を受け入れ委嘱し、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、地域の生活支援など「地域協力活動」に従事してもらい、あわせてその定住を図りながら、地域の活性化につなげるもの。

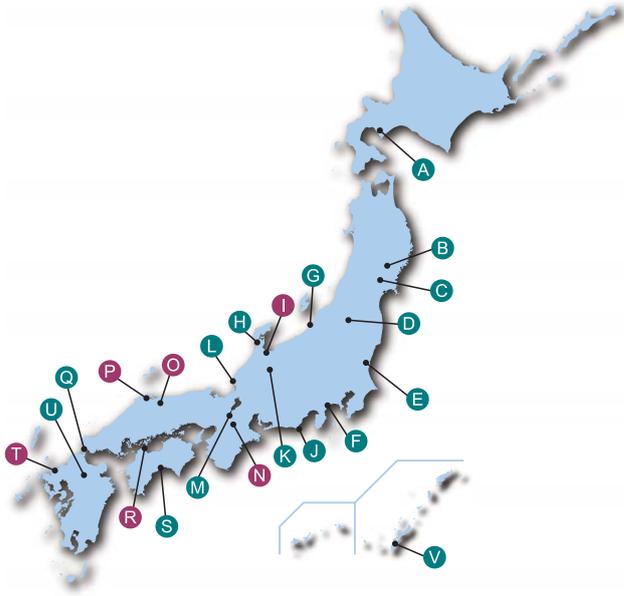
期間はおおむね1年以上で最長3年。総務省の支援としては財政支援(特別交付税)で、隊員1人につき最高400万円(＝報酬等(上限200万円)+活動費(上限200万円))となっている。地域おこし協力隊員は都市地域等から過疎、山村、離島、半島等の地域に住民票を移動しなければならない。

この事業は、「協力隊」「地域」「自治体」の三者による連携・結束がポイントで、地域・自治体の将来ビジョン、協力隊に対するミッションの明確化が重要とされている。平成25年度は特別交付税ベースで978名(4府県314市町村)が活動。これまでは、平成21年度から24年度まで1,376名が参加している。

主な電源地域(原子力立地市町村)の中では、薩摩川内市が10名と最も多い。

電源地域

情報ひろば



「電源地域情報ひろば」は、各市町村で開催されるイベント・伝統的なお祭りや、特産品などの情報をまとめて掲載するコーナーです。イベント・お祭りについては今回は1～3月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載費用が発生することはありません。（編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います）

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305 E-mail : furusato@dengen.or.jp

イベント いちのせき 一関市（岩手県）

地図 B

第8回全国わんこもち大会

多彩さは日本一といわれている、一関のもち料理。一関のもち文化をユニークに発信する、岩手名物「わんこそば」ならぬ「わんこもち」の大会です。

2人1組、または個人でエントリーし、5分で何個の餅を食べられるかを競う大会です。歴代記録は団体122個、個人74個。

大食いに自信のある方はもちろん、何より餅が好きという方、記録を更新したい方、大会へご参加ください！ 挑戦はできないけど怖いもの見たさの方も観戦にお越しください。

【開催日】2月1日（日）【開催場所】一関市大町4-29 なのはなプラザ2階
【問合せ先】未来塾（いちのせき市民活動センター）☎0191-26-6400
【URL】<https://www.facebook.com/wankomochi>



次々と「もち」をたிரらける選手たち

イベント そうべつちよう 壮瞥町（北海道）

地図 A

第27回昭和新山国際雪合戦

雪だまから身を守り、雪だまを敵を攻める。それが「スポーツ雪合戦」です。

現在、「スポーツ雪合戦」は日本国内にとどまらず、10カ国で大会・イベントが行われ、その競技人口は世界へと広がりを見せています。

人影がまばらになる冬の閑散期の地域活性化のため、1987年に壮瞥町の若者グループで結成した「アイデア検討会」でイベントのアイデアが生み出され、1989年に壮瞥町が「スポーツ雪合戦」の発祥地となりました。

白銀のコートには筋書きのない戦いとドラマが待っています。
【開催日】2月28日（土）・3月1日（日）【開催場所】壮瞥町昭和新山山麓 【問合せ先】昭和新山国際雪合戦実行委員会 ☎0142-66-2244 【URL】<http://www.yukigassen.jp>



白銀のコートでの熱い戦い

イベント あいづわかまつ 会津若松市（福島県）

地図 D

会津絵ろうそくまつり

会津伝統工芸品のひとつである、「会津絵ろうそく」。一本一本に菊、牡丹、藤などの草花が色鮮やかに描かれています。この会津絵ろうそくを灯し、その美しさを体感できる「会津絵ろうそくまつり」が御薬園、鶴ヶ城で開催されます。

御薬園では、琴と横笛の生演奏による音色が流れる中、竹筒で心字の池を取り囲み、幽玄・幻想の世界を現出します。鶴ヶ城では、会津本郷焼の瓦燈や会津塗り燭台で会津絵ろうそくを灯します。会津若松市内各所でも、それぞれ趣向を凝らした絵ろうそくが灯されます。

【開催日】2月13日（金）・14日（土）17:30～21:00 【開催場所】会津若松市鶴ヶ城、御薬園、他市内各所 【問合せ先】会津若松観光ビューロー・コールセンター ☎0242-23-8000
【URL】<http://www.aizu.com/erousoku/>



雪景色に浮かぶ会津幻影

イベント おおさき 大崎市（宮城県）

地図 C

スノーランタンフェスタ in 中山平

漆黒の闇夜に浮かぶ無数のオレンジ色の光が、雪を照らし出します。「スノーランタンフェスタ」では、雪で作ったランタンのオブジェに、ろうそくを灯して幻想的な世界をお楽しみ頂けます。

ここでは県内でも有数の豪雪地帯で、古来より雪に悩まされてきた地域です。しかし、その「雪」を資源と考え、観光に結びつけるという逆転の発想から生まれたイベントです。

お仲間、ろうそくを灯す、小さなまくら（スノーランタンオブジェ）作りなどのイベントにも参加してみたいかでしょうか。
【開催日】2月7日（土）・8日（日）（8日は点灯のみ）【開催場所】大崎市鳴子温泉星沼18-9 しんどの湯隣接広場 他 【問合せ先】中山平温泉観光協会 ☎0229-87-2201 携帯：090-4551-5656（菊地）【URL】<http://www.nakayamadaira.com/>



スノーランタンオブジェの光

イベント おだわら 小田原市〔神奈川県〕

地図 F

小田原かまぼこ桜まつり

小田原の代名詞的存在の「小田原かまぼこ」ですが、食べたことがない、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな方に、ぜひおすすめしたいのが「かまぼこ桜まつり」です。春を遊ぶ宴「小田原かまぼこ桜まつり」は、開花時期に合わせて開催されます。



地元のスギ間伐材を使用したかまぼこ板のお城

かまぼこ名人による板つけや細工ものの「手づくり実演」、各店の味を食べ比べる「ききかま大会」、かまぼこ板をどこまで高く積み上げられるかをチームで競う「かまぼこ板一夜城合戦」、まつりだけの限定品販売など、催しものがいっぱいです。

【開催日】3月28日(土)・29日(日) 【開催場所】小田原城址公園二の丸広場

【問合せ先】小田原蒲鉾協同組合 ☎0465-22-4068

【URL】<http://www.kamaboko.or.jp/>

イベント なか 那珂市〔茨城県〕

地図 E

ガヤガヤ☆カミスガ

かつては賑わっていたJR水郡線^{かみすがや}上菅谷駅前。現在では綺麗だけどスッキリ。ここに全く新しい駅前の商店街、楽しい街を作ってみようよ！の掛け声で集まった那珂市ならびに周辺地域の有志による市民参加型のイベントです。

100前後の店舗がひしめく「1日限定」の商店街、全国大会も視野に入れた、大人も子供も夢中になれる「スポーツ鬼ごっこ」、会場の中央では「音楽祭」や「路上プロレス」、「大道芸」など、毎回趣向を凝らしたイベントを開催しています。

市民参加型の「ガヤガヤ☆カミスガ」は6月・12月・2月、大型イベントの「サスガ☆カミスガ」は4月・10月に開催します。

【開催日】2月1日(日) 【開催場所】上菅谷駅前通り 【問合せ先】一般社団法人カミスガプロジェクト ☎029-229-0845 【URL】<http://kamisuga.org/>



数々の賞を受賞した今注目の“市(いち)”

イベント し か まち 志賀町〔石川県〕

地図 H

たいりょうきしゅうさい 大漁起舟祭

「起舟祭」とは、本格的な漁の始まりを告げる、豊漁と安全を祈り、お祝いをするお祭りのことです。

「大漁起舟祭」に、石川の冬の味覚が集結します。ステージでは地元芸能(太鼓・よさこい等)、歌謡ショー、甘エビが当たる福引大抽選会など、見て・食べて・味わう、盛り沢山な一日が楽しめます。

新鮮な海の幸がたっぷり入った大漁鍋や、地元海産物の炉端焼き、新鮮な魚介類の即売の他に、朝獲れ廻転寿司「西海丸」がオープンします。

志賀町婦人加工連絡会では、地元農産物を使った新商品開発を行っており、大漁起舟祭で新商品出品を目指してがんばっています。

【開催日】2月11日(水・祝) 【開催場所】志賀町富来漁港 【問合せ先】志賀町祭大漁起舟祭実行委員会 ☎0767-32-1111 【URL】<http://shikakankounavi.jp/>



石川の冬の味覚が集結

イベント か し わ ざ き 柏崎市〔新潟県〕

地図 G

YOU・悠・遊

「辛い雪国の生活の中で、雪を楽しもう」と始まった高柳町の雪祭りは、YOU(あなたも)・悠(のんびり)・遊(楽しもう)がテーマです。

前夜祭と本祭の2日間にわたり開催されます。

50人で力を合わせる巨大餅つきを目玉に、雪上のステージショーや美味しいものがたくさん味わえるのれん街など、食べて遊んで、じょんのびの里を満喫できます。「寒いけれど、温かい」、そんな気持ちになれる楽しい雪まつりです。

【開催日】2月21日(土)、22日(日)【予定】 【開催場所】柏崎市立高柳小学校周辺

【問合せ先】高柳地区コミュニティ振興協議会 ☎0257-41-2234

柏崎市高柳町事務所地域振興班 ☎0257-41-2241

【URL】<http://www.city.kashiwazaki.niigata.jp/>



巨大餅つき

イベント お ま え ざ き 御前崎市〔静岡県〕

地図 J

いけみやじんじゃ せつぶんほしまつり 池宮神社 節分星祭

御前崎遠州灘県立自然公園の一環にあり、原生林に三方を囲まれた桜ヶ池には、高僧が龍となり、桜ヶ池に住まわれて800有余年が経つという「桜ヶ池 龍神伝説」があります。

毎年節分の日、桜ヶ池に奉られる池宮神社では、辺りがうす暗くなる午後6時から「節分星祭」が行われます。

かがり火をたき、池の水面に浮き灯籠を流し、祝詞奏上、6本の破魔矢が放たれる「弓矢の神事」に続いて、赤飯・酒・数百個の卵が竜神に捧げられ、新しく迎える年の厄払いと、開運が祈願され、たくさんの豆やお菓子などが撒かれます。

【開催日】2月3日(火) 【開催場所】御前崎市佐倉5162 桜ヶ池 池宮神社 【問合せ先】桜ヶ池 池宮神社 ☎0537-86-2309 【URL】<http://www4.ocn.ne.jp/~ikemiya/>



池宮神社本殿

特産品 たかおか 高岡市〔富山県〕

地図 I

高岡流お好み焼き『ととまる』

通常のお好み焼きは小麦粉がベースですが、高岡市の新たなご当地グルメは、富山県に流通している魚のすり身(魚の種類は様々)をベースにした、「高岡流お好み焼き『ととまる』」です。

その決まりは、商品名に「高岡流お好み焼き『ととまる』」を使う、すり身を使う、富山県で消費量が多い昆布を使う、フライパンや鉄板で焼く、丸い形に仕上げる、という5ヶ条があります。

今、「ととまる」の認定店は高岡市内外含めて40店舗になります。

お酒のお供にピッタリです。高岡へお越しの際は、ぜひ一度味わってみてください。

【問合せ先】飲食店経営サポートとやま 【URL】<http://www.insapo.com>



味の決め手は魚介と昆布

イベント **越前町・南越前町** (福井県) 地図 L

水仙まつり

毎年1月、水仙の日本三大群生地の越前海岸一帯において、越前水仙の開花に合わせて、「水仙まつり」が開催されます。

期間中には、「荒波フェスタ」(1/17・18、南越前町)、「水仙生け花展」(1/23～26、福井市)、「水仙カニフェア」(1/24・25、越前町)などが開催されます。

イベントで無料配布される越前水仙の姿や香り、越前ガニなど新鮮な海産物の即売や、地元グルメなどを楽しんでみてはいかがでしょうか。

「水仙娘」が、かすりの着物姿でまつりや県花・水仙をPRします。

【開催日】1月17日(土)～31日(土) 【開催場所】越前海岸(越前町・南越前町)一帯

【問合せ先】越前海岸観光協会連合会 ☎0778-37-1234

【URL】<http://www.town-echizen.jp/>



水仙の配布

イベント **飛騨市** (岐阜県) 地図 K

飛騨古川三寺まいり

飛騨古川に、200年以上も伝わる「三寺まいり」は、毎年1月15日の夜、親鸞聖人のご恩をしのび、町内の3つの寺、円光寺・真宗寺・本光寺を詣でる慣わしです。

明治時代、このおまいりが男女の出逢いのきっかけとなったことから「嫁を見立ての三寺まいり」と唄われ、縁結びのおまいりとしても全国に知られるようになりました。

門前市には地元の温かい食べ物や、この日しか食べることができない酒蒸し饅頭など、おいしくてあったかいものでいっぱいです。

【開催日】1月15日(木) 【開催場所】飛騨市古川町市街地

【問合せ先】(一社)飛騨市観光協会 ☎0577-74-1192

【URL】<http://www.hida-kankou.jp/santera/>



縁結びのおまいりとしても有名な

特産品 **笠置町** (京都府) 地図 N

きじ鍋で暖まる町

「きじ鍋」が笠置町で提供されることになったきっかけは、町内にある旅館のご主人が、笠置に合う食材を求めて、たどりついたことに始まります。鶏肉に比べると歯ごたえがしっかりしていて、噛めば噛むほど、肉の旨みと甘みがあふれてくる「きじ肉」は旅館の名物となり、現在では町内すべての旅館で提供されています。

2012年に笠置町で開催された「第3回全国ご当地鍋フェスタ(N-1グランプリ)」における「鍋No.1決定戦」において、「きじ鍋」がグランプリを獲得しました。

【問合せ先】笠置町役場 ☎0743-95-2301 【URL】<http://www.town.kasagi.lg.jp/>



しっかりとした歯ごたえ、肉の旨みと甘み

イベント **大津市** (滋賀県) 地図 M

第25回湖辺ルネッサンス～大津のヨシ作戦～ヨシたいまつ一斉点火

「びわ湖開き」は滋賀に春の到来と湖上観光シーズンの本格的な幕開けを告げる風物詩です。

ヨシ(葦)は、枯れる冬季に刈り取るにより春先の発芽が促進されます。しかし、ヨシの需要が減ったことから、琵琶湖岸のヨシの多くは、自然のまま放置されていました。また、刈った後のヨシの利用もなかったことから、「松明にしてはどうか」という案が出て、現在の「びわ湖開き」の日に行う「ヨシたいまつ一斉点火」に進展しました。

当日は、市内7会場でヨシたいまつに一斉点火するほか、会場により、和太鼓などの芸能披露や温かい汁ものの振る舞いもあります。

【開催日】3月14日(土) 19:00点火 【開催場所】大津市琵琶湖岸一帯

【問合せ先】大津市環境政策課 ☎077-528-2760 【URL】<http://www.city.otsu.lg.jp/>



ヨシたいまつ一斉点火

特産品 **松江市** (島根県) 地図 P

スプーンで食べられる冷凍熟し柿

松江市の秋の代表的味覚である西条柿をいつでも味わってもらおうと、「冷凍熟し柿」が「まつえ農水商工連携事業」の一環で開発されました。

これは東出雲町の西条柿農家「まる福農園」の福岡博義代表と、「島根県立大学」の赤浦和之教授が開発した独自技術により、西条柿の付加価値化と用途拡大を実現するものです。

自然に熟した柿に比べると色も形も良く、「熟し柿」にしたものを冷凍して、デザートとしてスプーンなどで食べられるようにと工夫を凝らしています。平成27年6月から販売予定です。

【問合せ先】松江市役所商工企画課(まつえ農水商工連携事業推進協議会)

☎0852-55-5213



いつでも秋の実りを味わえる

特産品 **伯耆町** (鳥取県) 地図 O

大山がギュッと詰まった大山バーガー

鳥取県では、官民の連携のもと日本最大規模の『ご当地バーガー』の祭典を企画・実施しています。

鳥取県のご当地バーガーにおける火付け役になったのが、「大山バーガー(和牛ヒレステーキバーガー)」です。

平成21年に登場したこの「和牛ヒレステーキバーガー」は、大山周辺の食材を活かしており、肉厚の県産黒毛和牛のヒレステーキ、地産のフレッシュトマト・タマネギをベースにした特製ソース、人気ペーカリーのご主人がオリジナルのパンズを開発するというこだわりよう。

まさに大山のうま味が詰まった、ご当地バーガーの真骨頂です。

【問合せ先】レストラン花-HANA-(樺水フィールドステーション2F) ☎0859-52-2420

※火曜定休、営業11:00～16:00 【URL】<http://www.masumizu.net/station.html>



大山のうま味たっぷり

特産品 いまばり 今治市 (愛媛県)

地図 R

世界進出を目指すご当地グルメ『焼豚玉子飯』

焼豚玉子飯とは、愛媛県今治市の名物料理のひとつであり、「今治焼豚玉子飯」とも呼ばれるご当地グルメです。

もともとは地元中華料理店の賄い食でしたが、その後独立した店主たちが約40年前に商品化したもので、「焼豚玉子飯」と名付けられました。市内の多くの飲食店でメニューに載っており、今日では今治市の名物料理のひとつとなっています。ご飯の上に焼豚と半熟の目玉焼きをのせ、甘辛いタレをかけたもの。甘辛いタレと卵の黄身が絶妙に絡み合う、こってりとした味です。

2014年には今治焼豚玉子飯世界普及委員会が第9回B-1グランプリでブロンズグランプリ(第3位)を受賞し、学生や若者を中心に、今治市民のソウルフードとして人気を得ています。

【問合せ先】今治地方観光情報センター ☎0898-36-1118



学生や若者に人気

特産品 からつ 唐津市 (佐賀県)

地図 T

幻の「相知高菜漬け」が復活

「相知高菜」は、昭和40年代まで唐津市相知地区を中心に盛んに栽培されてきた特産野菜で、炭鉱の労働者や庶民の食卓の定番漬物でした。しかし、農家は小ぶりな相知高菜より収穫量が多い大型品種の栽培に移行したため、生産が激減し「まぼろしの高菜」となっていました。平成19年に種子の採集・選抜を繰り返す努力が続けられ、平成21年春にかつての相知高菜漬を復活させることができました。現在、種子管理はJAからつ「逢地の里直販所」1ヶ所で厳重に行い、相知地区の10軒を含む多数の契約農家と漬物業者で「相知高菜」の栽培を手掛けています。低農薬で大切に育てられた相知高菜を原料にした古漬けの素朴な味わいが、静かな人気を呼んでいます。

【問合せ先】JAからつ「逢地の里直販所」☎0955-51-8131



古漬けの素朴な味わい

イベント きたなかぐすくそん 北中城村 (沖縄県)

地図 V

ひまわり in 北中城～真冬のひまわり真夏を咲かせ～

「ひまわり in 北中城」は、日本で一番早い「ひまわり」のお祭りです。

開催のきっかけは、遊休農地の解消でした。一部農家の皆さんと村役場の方が、遊休農地に緑肥として「ひまわりの花」を植えたところ、満開のひまわりが、口コミによってマスコミの目にとまり、翌年には驚くほど多くの方が北中城へ訪れるようになりました。南国沖縄の気候を利用し、台風が来ない1～2月に開催されます。

北中城村の特産品販売や、いろいろなイベントも開催の予定です。

【開催日】1月下旬～2月上旬 【開催場所】北中城村熱田漁港近く

【問合せ先】北中城村まつり活性化委員会(北中城村役場企画振興課) ☎080-3344-8592 【URL】http://himawari-in-kjimdo.com/



真冬のひまわり

イベント しものせき 下関市 (山口県)

地図 Q

下関ふくの日まつり

下関では「ふぐ」を「ふく」といいます。

毎年2月9日は、「ふくの日」。「ふくの日」には、ふく祈願祭、市福祉施設のふくさし慰問などが行われますが、2月11日の建国記念日には、「下関ふくの日まつり」として、ふくの取り扱い量世界一を誇る

「南風泊市場」において、恒例のジャンボふく鍋(先着1,000名様)の無料サービスや、ふく刺しやふく関連製品の即売、近海で獲れた新鮮な魚介類の即売、袋せりによるオークション、ふくの料理教室(要事前予約)、ふく刺しなど豪華商品が当たる大抽選会等が行われます。

【開催日】2月11日(水・祝) 【開催場所】南風泊市場

【問合せ先】下関ふく連盟 ☎083-267-8181 【URL】http://fuku.com/



ふくの日まつりステージイベント

イベント こうち 高知市 (高知県)

地図 S

土佐の「おきゃく」2015

「土佐の『おきゃく』」は、街を会場にした大きな宴会のようなイベントです。2006年にスタートし、2015年には開催10回目を迎えます。

「おきゃく」とは、土佐弁で宴会のことをいいます。祝いごとなどに人を招いて、家で開く酒宴「おきゃく」。料理と酒に心がほぐれて自然と会話が弾み、本音のつきあいが深まるコミュニケーションの場です。

食・酒・アート・スポーツ・まんがなどの約40のイベントに、高知の「おいしい」と「おもしろい」がたっぷり詰まっています。

【開催日】3月7日(土)～15日(日) 【開催場所】高知市中心街ほか 【問合せ先】土佐の「おきゃく」事務局 ☎088-823-0989 【URL】http://www.tosa-okyaku.com/



土佐の「おきゃく」10周年

イベント ひた 日田市 (大分県)

地図 U

天領日田 おひなまつり

1984年から始まる「天領日田 おひなまつり」は、江戸時代、幕府の直轄地であり、九州の政治・経済・文化の中心地として栄えた天領日田の裕福な商人たちが、京都や大阪から買い求めた絢爛豪華なひな人形を、町おこしの一環として一般公開したことから始まりました。

期間中は、天領時代の風情にひたり、歴史を学びながらおひなさまを愛でる、「ガイド付きおひなめぐり散策コース」もあります。

春のひとつとき、昔ながらの町並みに風情を感じながら、ゆったりとおひなさま探しに出掛けてみませんか。

【開催日】2月15日(日)～3月31日(火) 【開催場所】日田市豆田町(まめだまち)、隈町(くままち)、天瀬古園(あまがせふるぞの)地区

【問合せ先】日田市観光協会 ☎0973-22-2036 【URL】http://www.oidehita.com/



草野家のおひなさま

電源地域 振興トピックス

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は、静岡県御前崎市の『じまんのごちそう』、北海道岩宇4ヶ町村のサイクリングツアー、福井県美浜町の生涯学習施設、福島県川内村で開催されたイベントなどの話題をご紹介します。



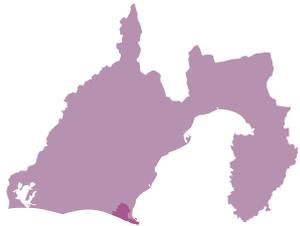
御

前崎に『じまんのごちそう』が誕生しました
『遠州御前崎夢咲牛ハヤシライス』 静岡県御前崎市

御前崎といえば「食材の宝庫」である。全国で3番目に長い日照時間、駿河湾近海で獲れた魚をすぐに運び込むことができ、御前崎港、家畜にストレスの少ない温暖な気候など、最高の食材を作り出す環境が整っている。また、より美味しい食材を求めて飽くなき探求心を持つ数多くの生産者



ちょっと贅沢な『夢咲牛ハヤシライス』



が、食材の持つポテンシャルを最大限に引き出している。そこで、その最高の食材を活かした『じまんのごちそう』を作るべく、御前崎市と地元事業者が共同で『じまんのごちそうメニュー』の開発に乗り出した。

この地域は、多くの外国人が訪れるニセコ地域に近接することから、取組みの一環として外国人ゲストを招いてサイクリングツアーを開催した。参加者は台湾のサイクリスト団体「中華民国自転車騎士協會」の会長及び理事と台湾の自転車雑誌「Bicycle Club」のカメラマンら5名。10月3日、岩内高原ホテルからスタート。途中、泊漁港で『いくらのしょうゆ漬けづくり』や共和町若手生産者グ



岩宇4ヶ町村の魅力満喫

食

とサイクリングツアー

その第一弾として完成したのが、内閣総理大臣賞受賞歴のある最高級黒毛和牛「遠州夢咲牛」の塊と御前崎産野菜を使用した『遠州御前崎夢咲牛ハヤシライス』である（御前崎市内の9店舗で絶賛発売中）。御前崎市では、9月29日（肉の日）を『夢ハヤシライスの日』として、

『遠州御前崎夢咲牛ハヤシライス』を学校給食で提供し、また、ハヤシライスの語呂にちなみ、全店舗共通884（ハヤシ）円で販売するなどプロモーションを行っている。さらに現在、第二弾・第三弾として、遠州一黒シャモと遠州黒豚を使ったメニュー開発に取り組んでいる。

北海道 岩宇4ヶ町村（泊村、岩内町、共和町、神恵内村）では、町村間の連携強化による地域の活性化を目的とし、平成25年より「岩宇4ヶ町村連携強化プロジェクト」として取り組んでいる。

ループ『グローアップ』による「ドマト収穫」などを体験した。

当日は悪天候で車移動が中心となったが、代わりに泊村アイスセンターで長靴アイスホッケーの体験や、





**平成26年度の海外研修を
行いました**

平成26年度研修事業として、平成26年10月4日(土)から11日(土)までの8日間、「欧州におけるエネルギー政策と環境共生によるまちづくりを学ぶ」をテーマに、11名の電源市町村をはじめとした複数の方々にご参加いただき、実施しました。



「コンラッド中低レベル放射性廃棄物処分場」の視察



研修のご案内

今年度の1月、2月の研修として、以下のような内容の研修が予定されています。

① No.4 少子高齢社会における新しい地域づくり

少子高齢化社会は、医療費等の社会保障費の増大等による地域財政の悪化を招くだけでなく、労働人口の減少による地域社会の維持管理の問題や地域活力の低下など、地域の存続に関わる深刻な問題となっています。これからは、少子高齢社会を前提とした、地域が一体となったコミュニティづくりや、地域特性を活かしたまちづくりが必要であり、本研修では「少子高齢時代における新しい地域づくり」のあり方について学びます。

【日時】平成27年1月29日(木)・30日(金)の2日間
【定員】20名
【参加費】20,000円
【場所】電源地域振興センター

② No.5 地域ブランド戦略を学ぶ

本研修では、地域独自の資源(特産品や観光地等)の差別化・高付加価値化への各種方策について、先進事例地等の講義やワークショップを通じて、そのブランド戦略について学び、今後、自地域で誇れる『地域の自慢づくり』について学びます。

【日時】平成27年2月下旬の2日間
【定員】20名
【参加費】20,000円
【場所】電源地域振興センター

【申込み・お問合せ】地域振興部 振興業務課
03-6372-7305
ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/kensyu/index.html
eメール：kenshuu@dengen.or.jp



**「国際物流総合展
2014」
出展しました**

平成26年9月9日(火)から12日(金)の4日間、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2014」に、当センターは企業誘致支援サービス事業の一環として出展しました。

「国際物流総合展」は、2年に1度開催されるアジア地域最大級の物流・ロジスティクスの総合展示会です。平成26年度は4日間で13万人を超える方が来場しました。

当センターブースで、電源地域への企業立地に係る優遇制度の紹介、企業誘致支援サービス事業受注先自治体の

工業団地等の紹介、関係各種パンフレットの配布を行いました。

企業誘致支援サービスで当センターをご利用いただいている28自治体の内、13自治体(岩内町、一関市、栗原市、那珂市、柏崎市、上越市、糸魚川市、白山市、三次市、山陽小野田市、今治市、唐津市、薩摩川内市)の皆様には、当センターブースにて協働して、PRを行っていただきました。

【お問合せ】地域振興部 振興調査課
03-6372-7306
ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/works/yuchi/yuuchi
eメール：yuuchi@dengen.or.jp



電源地域振興センター展示ブース



**定期開催型 第2回
「11・14 食の産品相談・
商談会」を開催しました**

電源地域の特産品の開発・改良および販路拡大を目的に、流通関係者をアドバイザーとして招き、一対一で販路

拡大等の具体的なアドバイスを受ける機会を定期的に提供する「11・14食の産品相談・商談会」を、平成26年11月14日(金)東京都中央区(綿商会館4階大ホール)で開催しました。

面談は12の事業者様、10社の百貨店等のバイヤーの参加により、49面談が実施され、「販路拡大への足がかりになる」「常設の試食販売を紹介していただいた」「売場担当者や卸問屋の担当者を紹介していただいた」などの評価をいただきました。



綿商会館4階大ホールで開催



今号のWebアンケート
プレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させて戴いております。多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に、今号の特集で紹介した薩摩川内市甞島こしきしまの「きびなご・薩摩赤いか・薩摩甘えび」のお刺身セットをプレゼントいたします。

■アンケート回答方法

当センターのホームページ(文末参照)の入力フォーム内のアンケートにご記入のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成27年1月31日(土)。当選の発表は発送(平成27年2月下旬予定)をもって代えさせていただきます。

【お問合せ】

(一財)電源地域振興センター

電気のふるさと編集室

☎03-6372-7305

ホームページ: www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html



「きびなご・薩摩赤いか・薩摩甘えび」のお刺身セット

第5回 「電気のふるさと」 フォトコンテスト を実施中!

★★★★賞および賞品★★★★

最優秀賞 1点 旅行券3万円分
優秀賞 2点 旅行券1万5千円分

※入選された作品は当センターのホームページ、「電気のふるさと～電源地域ニュース～」で紹介する予定です。

募集内容

- テーマ (1)「電気のふるさとの風景写真」
(2)「電気のふるさとの暮らし(生活風景・行事・イベントなど)」

撮影対象(電源地域)市町村は、建設準備中・工事中・運転中の発電所等が所在する市町村とその周辺市町村のことです。詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/area/>)「電源地域とは」を参照ください。

応募方法

- 写真と応募用紙の両方を送ってください。
- カラーまたは白黒プリント、2L(キャビネ版)またはA4サイズとします。
- 必ず規定の応募用紙に必要事項を記載の上ご応募ください。
- 写真プリントは、応募用紙と必ずセットで送ってください。
- お一人様3点までの応募とします。なお、1枚の応募用紙で応募できる写真は1枚です。

応募資格

日本国内に在住の方に限らせていただきます。

受付期間

平成26年10月1日～平成27年9月30日(当日消印有効)
必ず郵送で応募してください(メール便不可)。郵送以外では受け付けいたしかねます。

*注意事項他の詳細は当センターのホームページ(<http://www2.dengen.or.jp/html/works/photocon/>)をご確認ください。

送付先・お問い合わせ先

〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町二丁目3番3号(堀留中央ビル7階)
(一財)電源地域振興センター 電気のふるさと編集室
TEL:03-6372-7305(平日10～17時)
FAX:03-6372-7301
E-mail: furusato@dengen.or.jp

詳細はフォトコンテストのホームページをご覧ください

電気のふるさとフォトコン

検索

電源地域 振興センター事業

通 用 例 紹 介

■ 商品相談・商談会

この事業は、年3回、定期的に開催するものと、随時に開催するもの、地元開催型の商品相談・商談会の3種類のメニューを用意しております。

●「定期開催型相談・商談会」

流通関係者をアドバイザーとして招聘し、地域特産品の開発・改良および販路拡大についての具体的なアドバイスを受けることができる、年3回、定期に開催する商品相談・商談会です。

おすすめポイントは、1回の参加で多くのバイヤーと個別に面談することができ、効率的に商品をアピールすることができることです。また、継続的な参加により、常設・催事出店等の効果が現れます。

●「地元開催型相談・商談会」

皆様の地元で実施できるオーダーメイド型の商品相談・商談会です。

ご希望のアドバイザーを派遣して面談を行います。また、面談の他にもアドバイザーによる講演会や、製造のこだわりをアドバイザーに体感してもらうための



東京・中央区「綿商会館」で行われた「定期開催型相談・商談会」



丸亀で開催された「地元開催型相談・商談会」

事業者の実情にあわせた多彩な メニューを用意する販売支援事業

当センターでは、電源地域の皆様へ、商品の販売支援事業として、様々なメニューを用意しております。主に、地域特産品の開発・改良および販路拡大についての具体的なアドバイスを行う「商品相談・商談会」事業と、事業者の皆様の販売力向上を支援する「商品試験販売」の事業の2つとなっており、この事業にご参加いただいた方々から、高い評価をいただいております。

製造現場視察などを組み合わせることも可能です。

おすすめポイントは、地元で実施することで、参加者の時間的・費用的負担が軽減されることです。また、現地訪問によりバイヤーの地域への認知度が向上し、実施後もバイヤーと相談・商談しやすい関係の継続が期待できます。

●「随時開催型相談・商談会」

事業者の方の首都圏出張等の機会に合わせ、バイヤー等との面談を個別にセッティングいたします。

おすすめポイントは、出張等のご都合に合わせて面談をセッティングいたしますので、出張の合間等に効率よく相談や商談をすることができることです。

平成26年度の「定期開催型商品相談・商談会」は開催予定3回のうち、東京で2回開催いたしました。3回目は福岡で来年2月に



開催の予定です。また、本年度の「地元開催型商品相談・商談会」は5回の開催予定のうち、4回が開催されました。

■ 商品試験販売

このメニューは、電源地域の特産品事業者の販売力向上を支援するものです。大消費地においてテスト販売を行い、実施店からのアドバイスや消費者の反応を通じて、販売テクニックの習得や消費者ニーズの把握を図ります。

おすすめポイントは、商品の評価を消費者から直に聞き、開発・改良のヒントを得ることができ、また、商品に合った陳列や接客の仕方等の販売方法について、実施店の催事担当者からアドバイスを受けることができます。今年度は、阪急阪神百貨店、博多大丸、イトーヨーカドーで行う予定です。

平成27年度も、こうした販売支援サービスを実施する予定です。ぜひ、この機会に下記までお気軽にお問合わせください。詳細は当センターHPをご参照ください。

■ 地域振興部 振興業務課

☎ 03-6372-7305

eメール: mzp@dengen.or.jp

ホームページ:

<http://www2.dengen.or.jp>



松江で開催された「地元開催型相談・商談会」



博多大丸で行われた「商品試験販売」